

◆第2回鹿嶋市学校規模適正化検討委員会（令和7年8月26日）会議要旨

1. 開会

- ・第2回検討委員会は7月30日に開催する予定でしたが、当日朝の津波警報に伴い急遽延期した。会議資料は7月30日付で作成したものを使用する。
- ・令和7年度の会議は本日が初回ですが、会議の開催回数は年度毎にリセットせずに、第2回学校規模適正化検討委員会ということで開催する。

2. 挨拶

〔教育長〕

- ・分科会、地区説明会等の結果報告を読むと、統合というデリケートな問題ということもあり、様々なご意見が出ている。そのような意見は我々に示唆してくれるありがたいことと受け止めている。
- ・私たち行政で進めていくことの肥やしとなる、委員の皆様方には忌憚のないご意見を是非ともお願いしたい。

〔委員長〕

- ・当初計画と比べスケジュールは遅れていますが、最終的なゴールは予定通りいきたい。
- ・昨年、委員長として出席した学校規模適正化基準策定委員会にて、「鹿嶋市授業改善プロジェクトガイドブック」を拝見した。お手元に配布したものは、令和6年度版を踏襲した7年度版ですが、やはり大きく学びのあり方が変わってきている。
- ・昨今の非常に重要なことは生成AIの問題。ビジネスのレベルでは縦横無尽に使っています。教育では慎重に扱わなければならないが、個別最適な学びの部分に、ICT、生成AIを使うことはもう避けられない状況。本当に見える生成AIの嘘がたくさんあり、やはり子どもたちが討論しながら協働的な学びをセットでやっていかなければならない。
- ・この点についても「鹿嶋市授業改善ガイドブック」ではグループワークをはじめ、非常によく練られた内容になっており、国際的なピザ、OECDが進めている学びのあり方にも、この鹿嶋市は十分対応しているといえる。
- ・少人数教育もいいところはあるが、討議や一人一人の考えを深めていく際に、コミュニケーションは欠かせないことから統合の問題になる。ただ非常にデリケートな問題なので、この委員会では、本当に皆さん忌憚のない意見をお願いしたい。

3. 委員の任免と事務局の出席者

- ・人事異動や役員改選により3名（中西小学校PTA会長、豊津小学校校長、中野西小学校校長）に委嘱、任命。
- ・事務局側に5名（教育指導担当参事、総務就学課課長補佐、中野西小学校教頭、政策企画部次長、財政課長）が出席。

4. 協議

(1)第1回検討委員会の振り返りと経過報告

①第1回検討委員会の議事（録）の確認

★資料1「第1回学校規模適正化検討委員会会議要旨」の説明

- ・異動で転出された元委員の方は、事務局の方で議事録の確認を依頼する。

②地区説明会、保護者説明会の報告

- ・前回の検討委員会以降、合計8回の説明会（豊津地区4回、中野西地区4回）を開催した。内訳は保護者に対し2回、地区全体に対し2回、行政区毎の説明会を4回開催し、出席者は延べ218人、67件の質疑あり。
- ・質疑では「概ね賛成」という意見が多く、全ての説明会で「早く進めて欲しい」という発言あり。また反対という趣旨の発言は2件。
- ・その他、学校規模適正化の内容について情報提供を求める声、子どもたちの教育環境が変わることについての配慮、通学支援の要望、保護者の意向を尊重してほしい等の意見、さらに今後学校が無くなった後の地域づくりに関する意見があった。
- ・丁寧に、いろいろな意見、ご意向を尊重しようとして進めようとする市の姿勢に対し、進め方について、ほぼ市の方はノープランで、地元に問いかけるのみなどの意見多数。
- ・総括は、「概ね賛成」という声を実際の説明会でも多くいただいているので、今後、適正化を推進する必要があるものとする。また、推進にあたり、市の意向がうまく伝わっていない部分もあり、積極的な情報提供が必要とする。

③豊津小学校分科会の報告

- ・豊津小学校では住民説明会を3月と5月の2回実施。爪木区は総会を利用したため住民の半分以上の方が説明を聞いたが、大船津区は5、6人の参加だった。
- ・保護者説明会は4月、保護者会は5月と6月の2回開催した。
- ・豊津小分科会は3月と6月に開催した。
- ・豊津としてはアンケートも保護者会も分科会も「統合を前提」に話し合いをしたが、最終的にはまとまらず。
- ・豊津小学校の児童は令和7年現在、児童数は22人で、3年生と1年生はゼロ人。保護者は子どもが6年になった時に豊津小学校で卒業させたいという意見が多かったが、最終的には令和10年4月統合の意見が多数になった。
- ・小規模特認校制度を利用した児童が現4年生に半分ぐらいおり、判断が難しくなっている。
- ・分科会では「教育委員会は地域に」、「地域は教育委員会が」と考えにずれがあり、統合時期がなかなか決められなかった。
- ・統合先は、鹿野中学校区では鹿島小と豊津小の2つしかないので、鹿島小という意見が多数だったが、豊郷小や他の小学校を考える保護者もいた。
- ・通学距離が延伸するため、スクールバスなどの要望も多く、また体操服やシューズなどの購入補助を要望する声もあった。
- ・統合により生じる様々な不安解消の手だて（心の不安を解消するための相談や、転入先にスムーズ馴染めるようにするため、転入先との事前交流活動等）の要望。

- ・小学校がなくなること、子どもたちとの交流ができなくなることへの心配、地域コミュニティの核など多様な役割を担う学校が無くなることについて検討していただきたい。
- ・「豊津小学校の今後について話し合い」（分科会での協議経過の報告リーフレット）は豊津小保護者、豊津地区に配布したが、公民館、教育委員会どちらへも問合せ無し。

④中野西小学校分科会の報告

- ・6月13日に最初の分科会開催。委員長と副委員長の選任後に意見交換。
- ・統合を前提とした雰囲気の中、子どもを中心に見たその通学路を重視し学校を選ぶというような意見交換であった。
- ・7月11日に第2回分科会開催。適正化についての討議、検討の深まりがないこと、検討にあたり意見の偏りが生じる懸念が示され、また、前提条件のとらえ方に委員間に乖離があり白熱した議論になった。
- ・8月22日に第3回分科会開催。9月の行政区回覧を利用し地域アンケートを実施することが了承される。適正化の是非も含まれるが、統合についてのご意見を伺うものとして実施する。
- ・今後の日程等は、9月に調査、10月に調査結果から具体的なプランを作り、12月にそのプランについて地域に再び賛否を問う。その結果から、分科会で最終的な案をいくつか絞って検討委員会に報告する。
- ・現実の学校と地域の住民の方との意思をある程度一致させておかないと、将来的に禍根を残しかねない、地域の意見を吸い上げることが一番大事と考えた。この過程を通じお互いに妥協できるような案を作り、統合に持っていければ良いと考える。

【中野西地区アンケートの実施についての意見交換（ゼロベースで実施するアンケート）】

- ・今までの議論の積み重ね、すべてのプランがゼロになる可能性を残すアンケートを実施することを危惧する。
- ・ものすごく丁寧にすすめることで、統合がいまだに決まらない自治体もあり、一人一人の意見を集約するということも大切だが、統合ありきで進めていくという流れの中のアンケートにはならないか。
- ・学校がなくなることとどの程度了承できるかということを知るためのアンケートであり、分科会やこの検討委員会だけで決めると、地域はおそらく、不安になるか、将来絶望するか、反対運動を起こすかを選択すると思う。そのためにも、意見を聞いてそれに基づいたプランを作ることがやるべき一番のことと思う。最後の1人まで意見がまとまらないう駄目だということは考えてない。
- ・アンケートは、分科会が検討委員会に提案する具体案を作るための資料。アンケート結果を参考にプランを作るということ。客観的な資料と考えていただきたい。適正化の検討を進める上で、地域の意見を聞くことも必要である。地域も認識して作った適正化案ということであれば、行政も進めやすいのではないかと考える。

【アンケート調査に対する中野西小学校分科会委員の意見】

- ・アンケートなどで時間がかかることは問題、なるべくスピーディーに進めて欲しい。
- ・令和9年希望する声が多い理由は、15人いる5年生が抜けると、全校児童数が40人を下回り、運動会なり学校の行事等が困難になるので、令和10年まで送れないから。
- ・早く決めることで、子どもたちの交流もできる。保護者とその子どもたちの不安解消につながり、学校の先生の配置の配慮など、行政の方でもいろいろと準備ができるはず。
- ・統合は仕方ない、早く決めて欲しいというのが本音。
- ・小さい学校の良い点もあるが、この先いろいろな社会を生きていく子どもたちのことを考えると、やはりできるだけ適正な状況に子どもたちを置いてあげたいと考え、いろいろなことが早く進んでほしいと思う。

【中野西小学校地区アンケート調査についての結論】

- ・教育委員会で決めたことがひっくり返るような、アンケートはこれまでの議論の流れが切れてしまうので、適正化についての中身までゼロベースで問うような質問項目は見直す。
- ・学校規模適正化の協議がなかなか進まないことについて、保護者の不安が見込まれるので、スケジュールを踏まえ、アンケートは1回で結論を出した方がいい。

【分科会の進め方の再確認】

- ・アンケートはやらなければならないものとして、市で統一して作成し、該当した学校に実施してから検討を進めるという順序にすれば、地域住民や各分科会、検討委員会などの理解が進み、円滑に協議が進んだと思う。
- ・地域の事情を丁寧に吸い上げるのであれば、アンケートの実施、内容等その時々で分科会が判断するとしたおいたほうが良い。フリーハンドにしておく部分は残した方が良い。

(2)鹿嶋市学校規模適正化基準該当校についての協議

①適正化の手法、適正化の実施日

【豊津小学校の検討】

- ・当検討委員会では豊津小学校については「鹿島小学校と統合先校とし、令和10年4月を統合日とする。」と決定する。
- ・大きな学校に入ったときのケアも必要、その場合には配慮する。
- ・鹿島小学校以外の学校を選択する場合、学区外、市外から豊津小学校に通う児童は指定校変更申請にて配慮する。
- ・令和9年4月を希望する声もあったが、アンケート結果では10年4月の希望が多い。
- ・小規模特認校制度を利用し、地区外から通っている子どもが4年生までおり、豊津小学校で卒業するつもりで入学したことを踏まえると、令和10年4月が適当。
- ・令和8年、9年、10年の豊津小学校への入学予定者は8年度0人、9年度9人、10年度6人。このことを踏まえ、令和8年度以降の全児童数は、令和8年度19人、令和9年度21人、令和10年度20人、クラス数は2クラスのまま継続することが見込まれる。
- ・今後、児童クラブ、スクールバス、体操服など具体的な協議に要する時間を考えると、統

合日は10年4月が適当。

- ・受入れ校となる、鹿島小とは何も協議していない。その準備期間として一定期間が必要。
- ・統合先校が決まったときには、分科会にもメンバーとして入っていただくことになると思う。その際には相手校の校長、教頭だけではなく、保護者を考えると、20人と決まっている分科会の委員定数を拡大する必要がある。

【中野西小学校について】

- ・中野西小分科会での現時点での決定、報告事項無し。次の分科会にて議決した結果をこの検討委員会に報告する。

5. その他の意見

- ・第1回検討委員会において、3つの選択肢について地域で考えることからスタートすることをお願いしたが、基本的にはもう統合しかないにもかかわらず、詳細な説明なしで、適正化の手法を問いかけたことでかえって協議を複雑にした。ただ、誤解を与えたかもしれないが、鹿嶋市は丁寧な対応をとっているといえる。
- ・〇〇小学校学校規模適正化委員会という名称は、基準に該当した小学校の児童数を増やすことを検討する委員会と誤解される。「〇〇小学校統合検討委員会」が適当ではないか。

6. まとめ

【第2回検討委員会での決定事項】

- ・豊津小学校は、統合日が令和10年4月、統合先校は鹿島小学校。なお、鹿島小以外の学校を希望する場合は指定校変更申請にて配慮する。
- ・中野西小学校は、9月に実施する地域へのアンケートの結果を踏まえて分科会としての報告案を取りまとめ、第3回検討委員会に報告する。地域アンケートは1回で完結するように、内容を再考する。

【委員長総括】

- ・学校の統合を検討する際、未来ある子どもたちの問題とこれまでの歴史の保全の議論はこの市でも発生している。
- ・行政として、これから生きていく子どもたちにこのように「授業改善プロジェクト」に示されている「議論をするような学びのスタイル」を一日も早く実現させていく必要があり、そこを理解していただくということが重要である。
- ・自分の町の自分が通った小学校、何世代にもわたってきた小学校が無くなるということはやはりすごく大きなことなので、学校の歴史を残すことに参画する等、長く学校に関わってきた方々に配慮することが必要であり、重要なこととして市は考えてほしい。